

Q - Uを用いた学級事例検討会のすすめ方

本号は、「教育センターだより・第48号」からの抜粋・リメイク版です。

検討会を行う前に

- 企画運営者を決める** 校務分掌に基づき決定します。現職教育・教育相談・学級経営等の係教師が中心となって連絡調整や諸準備を行うことになるでしょう。
- 事例提供者を決める** 希望者がいれば、その方をお願いしますが、いない場合は、個別に打診を行いながら決めるようにします。特に特徴的な学級である必要はありません。
- 司会進行係を決める** 現時点では、事前説明会などの研修に参加し、検討会を体験された先生が適任でしょう。外部の助言者がいる場合は、その方に依頼するのも当面はよい方法です。
- 資料を用意する** 「いこちのよいクラスにするためのアンケート(学級満足度尺度)」のプロット図に児童生徒の名前を記入し、かつ性別が分かるようにしたものを参加者分用意します。
事前説明会資料に様式あります。 時間があれば、下の「1 ~ 」を記載した報告資料を併せて用意します。
- グループを編成する** 学年混成で5人を基本としたグループを事前に編成し、周知しておきます。検討会は、グループごとに机を囲んで着席しますので、図書室などが便利です。
- その他準備するもの** 名刺大程度の色紙か付箋紙を7色、各色とも人数×5枚程度。これらを貼り付ける画用紙グループ数×3枚程度とのり(付箋紙なら不要)。黒板。各自マーカー数色。

1 事例提供者が学級について報告する **報告は簡潔に！ 各項目ごとに、2分程度にまとめます。**

まず事例提供者が、次の8項目について報告します。参加者は、報告を聞きながらプロット図に情報を書き込みます。～ は、どの位置の子であるかを明確にします。色分けをして見やすくするとよいでしょう。

- | | |
|----------------------------|-----------------------|
| 学級の状況について日ごろ問題であると感じていること | 学級の公的なリーダーの児童生徒 |
| 他への影響力の大きいインフォーマルリーダーの児童生徒 | 態度や行動が気になる児童生徒 |
| プロット位置が意外・疑問に感じられる児童生徒 | 学級内の小グループを形成する児童生徒 |
| 4群にプロットされた児童生徒に共通する特徴 | 学級経営、授業展開の方針や実施していること |

2 個人 グループ 全員の順で、学級をアセスメントする

この学級の状況をどのように特徴づけることができるか、まず各自が考え、付箋紙1枚につき1点ずつ記入します。次にこれをグループ内で示し合い、内容の似ているものをまとめて集約します。グループの代表(係)がこれらを発表し、板書します。そして、参加者全体で学級の特徴を数項目に整理します。さらに、今の学級の状況が、どの点に最も起因しているかを考え、1～2項目をピックアップします。

(例) わがままな子が満足している。ルールが低下している。児童生徒の自由に任せる部分が多い。リーダーが力を発揮できない。個別に配慮の必要な子が多い。まじめで前向きな子が認められない。

3 個人 グループ 全員の順で、今後の対応(学級経営の具体的方策)を考える

下の6つの観点から、よりよい学級を築くための具体策を考え、観点別に色分けした付箋紙等に、各自が1枚に1項目ずつ書き込みます。次にグループで色ごとにまとめて台紙に貼り付け、代表(係)が発表します。

- | | |
|----------------------|------------------------|
| ・授業の進め方のポイント | ・保護者への説明・協力体制の在り方 |
| ・担任のリーダーシップのとり方のポイント | ・学校組織のサポート体制の在り方 |
| ・時間外(休み時間、放課後)に必要な対応 | ・学級活動、給食、掃除の時間の展開のポイント |

時間と場所に余裕があれば、全員で各グループを自由に見て回り、様々な考えを共有します。

会の終了後も、少しの間職員室に置いて、先生方が自由に見られるようにしておくのもよいでしょう。

4 助言者がいればコメントをもらい、最後に事例提供者が感想・考えを述べる

事例を提供しての感想や、これから実践したいことなどについて述べます。どのような方策を実践するかは、基本的に事例提供者の主体性に委ねられます。事例提供者に感謝の気持ちを込めて、拍手！

守秘義務の確認を忘れずに。資料は原則として回収します。

平成18年7月5日発行
次号もQ - U関連です。